■第65回 行動展

東京展:国立新美術館 2010.9.15(水)~27(月) 大阪展:大阪市立美術館 2010.10.13(水)~17(日) 京都展:京都市美術館 2010.11.2(火)~7(日)

卒業生・新谷友佳子さんが行動美術協会の会友に推挙されました!!

●入選



「先へ」 新谷友佳子(修士課程修了)





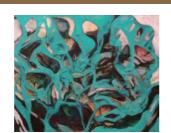
「海中風景ー夜の飛翔ー」 髙井道夫(洋画講師)

私の制作においての観点は、自然の 中で生み出される生命の力強さです。 と言うのも、私の幼少期の記憶が現在 の制作原点になっているからです。

私は田んぼや畑に囲まれた中で育 ち、その中で生きる小さな生き物たち と触れ合うことを通して日本の季節と 自然を肌で感じながら過ごしていまし た。この記憶と、姉の妊娠という大き な出来事によって生命の営みの力強さ に感銘を受けたことが今日までの制作 の糧となっています。

これから先、新たな発見と新たな出 会いによって作品は変わっていくと思 いますが、私の中で流れ続け、存在し 続けている記憶は決して無くなること はないと感じています。そして、私に とって大切にしていることを見失わず 制作を続けていきたいです。

最後となりましたが、会友推挙とい う貴重な評価をくださった委員の方々 にとても感謝しております。この場を お借りして御礼申し上げます。





■第74回 新制作展

●入選

「The half 2608」 多養麻子(卒業生)



東京展:国立新美術館 2010.9.15(水)~27(月)

広島展:広島県立美術館 2010.10.12(火)~17(日)

京都展:京都市美術館 2010.10.21(木)~31(日) ※25日(月)は休館

名古屋展:愛知県立芸術文化センター 2010.12.7(火)~12(日)

「end-A-」 澁川元気(洋画4年)



「花坊~乱」川口祥大(洋画4年)





「反射」 今崎順生(卒業生)





「REAL DUB WORLD 2010」 西田周司 (洋画教授)



「明代長城」 中村貞夫(洋画講師)



「蝕まれた7本の柱」 市川悦也(彫刻教授)

あーと通信 2010 Autumn

宝塚大学 造形芸術学部 アート・デザイン学科 美術領域 アートニュース

No.30

あーと通信 秋号特集 『卒業生は今何をしてるの?』

あ一と通信28号(今年の春刊行)からの特集コーナー第3弾!連続シリーズ「卒業生の今」をお伝えします。 今回インタビューに応えてくださったのは、本学で美術を専攻した第1期生(1991年卒)の現代美術家・大野良平さん。 関西の私鉄、阪急電車今津線沿線での様々な人間ドラマを描いたベストセラー小説『阪急電車』(著者:有川浩)が 来年に映画化されますが、実はその小説の中に、大野さんが手掛けた作品も登場しているんです。

大野良平さん(1991年卒/現代美術家・宝塚アートボランティア「TA*CO」代表)



〈大野良平〉

1959年宝塚生まれ。宝塚造形芸術大学造形学部彫刻 コース1期生(卒業制作・金賞)/全関西美術展(一席受 賞)/92年番画廊で初個展以後、信濃橋画廊、ギャラ リーマーヤなどで毎年個展/93年兵庫県立近代美術館 にて兵庫の美術家展に出品。95年タワーアートin通天閣 に出品など/03年宝塚南ロサンビオラ空き店舗での宝 塚現代美術展・店に参加/04年宝塚アートボランティア グループ『TA * CO』を設立し、市民とアートの出会いの 場として「宝塚あ一と寺小屋座談会」を定期的に開催/ 09年架空通信百花繚乱展/10年第2回世界文化遺産姫 路城現代美術ビエンナーレ2010展 等。

再生をテーマとした「生」プロジェクト



小説「阪急電車」に 登場した「生」の文字。

阪急宝塚駅付近、阪急今津線 の高架下に流れる武庫川の (2005年1月撮影)



大野さんの活動が神戸新聞で記事になりました。



形より記憶に残したい

「再生」「命」を追求



大野さんへ

大野さんへのQ&A

Q.卒業後はどんなお仕事をしていますか?

A.「講師業をしながら作家活動をしています。」

「大学を卒業してから20年間、既成の美術団体には所属せず個展を中 心に作品を発表しています。画廊や美術館といった美術の制度をもたな い商業空き店舗での宝塚現代美術展・店に参加してから美術家がそう いった場とどう向き合うかについて考えるようになりました。

2005年には、アートボランティアグループ「TA * CO」(宝塚アートコミュ ニケーション)を立ち上げ、地域での美術展、座談会、子どもたちとのワ 一クショップなどを企画しました。地域のイベントなどにも積極的にアート でコミュニケーションしています。基本はすべてボランティアです。」



●「燃焼するもの」(2006年)

81個の練炭を燃焼させてから水で一気に鎮火し、 それぞれの表情を作品としたインスタレーション。

Q.作家活動は大変ですか?

A.「やりがいのある仕事です。」

「美術作家活動は自分自身の表現。苦労だと感じたことはありません。 今、自分が生かされているという事に感謝しています。」

Q.どのような学生生活でしたか

A.「ただひたすら制作に励んでいました…」

「…と申したいところですが、先生を含めいろんな人との出会い を楽しんでいました。自分にとって人生における奇跡的な出会 いもありました。在学中の人と人との出会いは自分の中で大き な財産となって蓄積されています。」

Q.これからの目標は何ですか?

A.「小説の映画化に伴い、今度は市民ボランティアの 手で自然消滅した『生』を再現できるといいですね。」

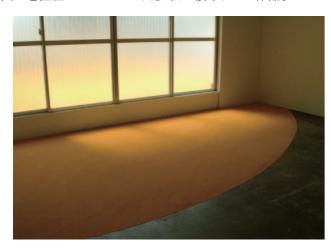
「最近のベストセラー小説『阪急電車』に登場する河原に石を積 んだ巨大な『生』のオブジェは私が仕掛けた作品ですが、美術 には地域を元気づける力があると信じています。自分の美術と 社会との関わりを模索していきたいと考えています。」

在学生・高校生に向けて一言 お願いします。

「美術作家(アーティスト)を目指すのであれば、自分の足の裏にくっついている ものをひとつひとつ拾うことから始めましょう。在学中にそれを身につけ、多くの 出会いを通して、一生涯かけて続ける勇気と根気が必要です。」

「ウー・プロジェクト」(大阪天満橋・ギャルリ ウー/2004年)

ギャラリーの内(室内)と外(室外)をつなぐインスタレーション。 黄土を直径12メートルの円弧状に積もらせた作品。





一見コンクリートの 床に着色したり マットを敷いている ように見えますが、 実は黄土を真っ平 らに敷いた作品で す。黄土とは「黄 砂」で知られるよう にとても細かい粒 子の砂です。

ArtNews

◆「記憶の中の廃材シリーズ」~記憶の再生をテーマに~ 阪神淡路大震災で解体した思い出の詰まった生家の材木を用いて、アートに再生させた作品達です。



●「循環」

(2004年 第5回宝塚現代美術展・店)/宝塚南口駅前サンビオラ3番館・空き店舗内 「自宅を解体した当時の写真を工業和紙にゼロックスで拡大。 表面には黄土を塗っている。手前に木の塊に穴を穿ち杉苗木を植えた。 廃材(記憶)が土に還りやがて新しい命が芽生える。 一緒に写ってるのはわたしと当時5歳の息子(命の循環)です。」



●「記憶のピラミッド」(2010年 個展)/ギャラリーマーヤ



●「記憶の中の廃材一時空一」(2010年 個展)/ギャラリーマーヤ



● 「circulation」 (2004年 第5回宝塚現代美術展・店)/宝塚南口駅前サンビオラ3番館・空き店舗内 家の大黒柱に無数の穴を穿ち、循環をテーマにした作品。

-9月の学祭で催された同窓会「ホームカミングデー」を振り返ってー



「先日のホームカミングデーでは、 恩師をはじめ多くの同窓生や後輩 たちと懐かしい再会ができました。 20年前、一期生として宝塚キャン パスに入学した当初は苗木だった 木々が、今では大きく枝葉を広げ、 キャンバス内でたくましく成長して いるのを見て、20年という歳月の

重さに感動を覚えました。 入学当時、私は大阪平野を一望

できる絶景の自然環境のもと、先 輩不在の我々は伸び伸びと学生 生活を謳歌していました。その後、 後輩たちが入学し先輩としての自 覚を意識し身を引き締めて作品制 作に勤しんでいた頃が懐かしく思 い出されます。

卒業後、大学も新たな学部(東京

メディア・コンテンツ学部および看

多くの優秀な卒業生が輩出されま した。これを機会に、今度は我々 卒業生が相互の交流を深める場と して同窓会を築き上げていかなく てはなりません。

最後になりましたが、今回このよ うな場を設けていただいた先生方 をはじめ事務局の皆さま、ホール 係としてお手伝い頂いた在学生諸 護学部)が増設され、設備も充実し 君に感謝いたします。」

ご多忙の中、取材にご協力いただきありがとうございました。